

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700125		
法人名	有限会社 エムエス		
事業所名	私とゆかいな仲間		
所在地	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿甲4715番地5		
自己評価作成日	平成26年11月4日	評価結果市町村受理日	平成27年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の医療機関より24時間の医療サポートを受け、入居者、家族、職員も安心して毎日を過ごす事ができている。また、併設のグループホームや介護サービスとの交流やバスハイクも定期的に行っている。
法人全体の勉強会や研修等に参加し、レベル向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

嬉野市内の温泉街の近くに、併設病院の2階にグループホーム「私とゆかいな仲間」がある。入居者、家族、職員が安心して日々、過ごすことができるように、併設病院による24時間対応の医療体制が構築されている。開設して11年経過しているが、入居者の高齢化、重度化が進み、外出等難しくなってきたが、併設病院でのリハビリに取り組んだり、通所と合同のドライブに行ったり、入居者の楽しみ支援に努められている。また、理念を実践できるように、法人全体での研修に積極的に取り組み、職員の能力向上ができるように取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	より良いケアを目指す為施設内に運営理念を提示し、就業前に全員で読み上げている。管理者と職員で話し合いや確認動作を行い情報を共有している。	開所して11年、変わらない理念に基づく対応ができるように話し合い、確認を毎朝されている。職員間で、理念を共有し、実践に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の介護度が高く高齢により外出の頻度は少なくなっているが、定期診察や歯科受診、リハビリ室等で職員や顔見知りの患者さんから声をかけてもらっている。	地域の清掃活動やお祭り、面浮立に参加し、地域での交流ができています。また、回覧板もまわり、情報交換も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られた家族からの質問や運営推進会議に参加して頂いている民生委員さんや地域代表の方からの相談を受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しホームでの状況報告や、参加の方へ地区行事等の情報を尋ねたり意見交換を行っている。	運営推進会議開催時には、案内文を送付し、家族も参加されている。また、会議では、入居者の健康状態やホームでの行事等を報告されている。民生委員より、地域の情報や防災の助言があり、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター担当者に参加して頂き、情報共有している。	日頃より、地域包括支援センターと関わりが多く、相談・報告が行われている。また、行政からの助言も頂き、良好な関係性が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月併設の医療機関の身体拘束委員会へ参加し理解しているが、入居者の安全確保の為に体感センサーやベットの柵を使用している。家族に説明し同意を頂いている。1名の方は皮膚状態悪化防止の為介護服着用してもらっているが、全員で話し合い排除に向けて取り組んでいる。	身体拘束に関しては、院内勉強会で学習し、拘束に頼らないケアの検討を繰り返し、安全確保に努められている。しかし、建物の構造上、ホームが2階にあるため、出入り口は施錠されている。	今後も、拘束や施錠に頼らないケアの工夫の検討を繰り返し、解除に向けた取り組みが進むことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会へ積極的に参加するように努め、接遇等職員間で注意し合うようにし、事業所でカンファレンスも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する勉強会へは参加し学習している。これまでに支援は無かった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を説明し、疑問点にも丁寧に答えるように努めている。料金改定時も説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族面会時、計画書の見直し時期に本人家族に意見を聞き、運営に反映させている。	玄関にも意見箱を設置し、家族の面会時や遠方の家族へ状況報告を行い、意見や要望を確認されている。そこで出た家族の意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて管理者を交えて話し合いが行われている。管理者は申し送りや日々の業務の中でも職員から意見を聞き運営に反映させている。	全体カンファレンスや個別カンファレンスでは、職員の意見が活発に出されている。また、日々の業務の中でも、話し合いや確認が行われ、全職員の統一した共通認識ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月休み希望を取り勤務表の確認を行い、個々の相談にも応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設医療機関で行われている各委員会や定期的に行われる勉強会への参加を勧めている。参加者はレポートを提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが行っているケア会議にケアマネが参加している。併設のグループホーム職員との情報交換を行い業務改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に色々な事を尋ね、本人が話している時は話を最後まで聞くように心掛けている。入居前に職員間で情報を共有する為話し合いを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人家族と面談するが、双方が話しやすいように別々に聞くようにもしている。家族面会時は各職員が言葉かけを行うように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に意向を良く聞き、他のサービス等の案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と言う気持ちで接している。本人がやりたいとしている事は共に行き、楽しく生活して頂けるように職員一同心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活状況を話したり、自室で面会をして頂いている。職員が毎月生活状況や健康状態などを手紙に書き家族へ送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室がある方は家族に依頼して外出してもらっているが、高齢化や認知症状の高い方が多く忘れていた状態、定期的に面会に来られている友人にはまた来て頂けるよう声かけを行っている。	親戚や友人、知人の訪問が多く、昔話をしたり併設病院に通院している近所の方と会ったり、馴染みの関係を継続されている。しかし、重度化により馴染みの場所への外出が難しくなっている。	入居者の個別的な支援や楽しみ支援ができるよう、行事や季節に合わせたドライブなど利用しながら、馴染みの場所や人との関係が途切れない支援に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個別性を把握して孤立されないように利用者間の仲介を行うようにしたり、ホールで座られる場所にも気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもお会いした際は様子を尋ねたり、相談された際は快く応じるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や意思疎通困難な方は表情や行動により意向の把握に努め、スタッフ間で共有し個別ケアに努めている。	意志を伝えることが難しい入居者がほとんどである。そのため、入浴時、リハビリ待ち時間、日頃の関わりの中での会話や表情等の現状を書き留め、職員間で共有し、意向の把握と対応が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントをする際に細かく尋ねるようにし、入居前に他のサービスを利用されていたら事業所等に情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が把握できるように、個人ノートに日勤帯と夜勤帯の状況を記入するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、他職種からも情報収集しモニタリングや評価を行い介護計画を作成している。	スタッフからの聞き取りや家族の面会時に意向の確認を行い、カンファレンスで状態を把握している。3ヶ月ごとの評価と毎月のモニタリングをもとに、個別計画書が作成され、必要時には随時更新されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表に記入し気付きは個人ノートや申し送りノートに記入して職員間で情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を取り入れてサービスにつなげるようにし、日々の生活が単調にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	友人や民生委員の訪問や馴染みの美容師さんに来てもらうようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関がかかりつけ医で受診時は職員が付き添い、日頃の状況を伝えている。専門医療を紹介された際は家族に連絡し同伴してもらっている。	併設病院のかかりつけ医がほとんどであり、入居者は、適切な医療を受けることができている。また、専門医への受診は、かかりつけ医より情報提供が行われ、家族への報告も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師に情報を伝えたり、日頃と変化があった時は速やかに併設外来看護師へ連絡し指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の状況を記載する情報提供用紙を作成し医療関係者に提出している。こまめに面会に行き病院関係者に状況を確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行っている。その状況になると、主治医、家族、管理者や職員と具体的な話し合いを行い支援している。	指針をもって主治医より説明をしてもらい、意向の確認が行われている。また、変化する意向についても何回も確認をしながら、意向に沿えるよう併設病院と連携し、終末期の支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急に対応できるように併設医療機関で行われている勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設医療機関と連携し、火災避難訓練を実施している。地域の消防団に相談しているが、協力体制はまだ整っていない。	火災避難訓練は年に2回実施され、避難場所の確認や緊急時連絡網の確認が行われている。また、設備、災害対策のマニュアルも作成されている。しかし、夜間想定での訓練は実施されていない。また、消防団等との地域連携の構築もこれからである。	今後も、消防団等へ働きかけ、地域連携体制作りが進むよう、取り組みに期待する。また、夜間想定での訓練を行い、夜間避難での手順と課題の把握、全職員が避難誘導方法を身につけることができるよう、期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いにならないように言葉かけなど職員同士で注意するようにしている。プライバシーを気付けないように居室で話すようにしている。	声のトーンや話し方、言葉使いには注意している。また、現場でも、その都度声をかけ、振り返りが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を引き出せるように雰囲気作りに気をつけたり傾聴するように努め、自己決定できない方は表情や行動から本人の思いをできるだけ理解するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が望まない事はせず本人のペースや意思を尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好んで着ている洋服や好きな色等を理解し、髪形なども本人の意向を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や季節食を提供し、楽しみながら食事ができるように支援している。誕生日は本人が食べたい物を尋ね提供している。入居者の能力に応じて食事の準備や後片付けを一緒に行っている。	入居者の能力に応じて、テーブル拭きやセッティングの準備等が行われている。また、食事形態もそれぞれの嚥下状態に配慮し、おいしく安全に食べることができるように工夫されている。食事中は会話を楽しみながら、食事介助が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設法人の管理栄養士による献立で栄養バランスは整っていると思う。個々の嚥下状態に応じて食事形態を変え、摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。定期的に併設の歯科より歯科衛生士に訪問してもらい、口腔状態を確認してもらっており、必要時は歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導など個別対応を行っている。	排泄パターンを把握し、トイレに定時誘導し入居者の状態に応じた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い排便状況を把握している。食物繊維の多い食事を提供したり、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に意向を確認し支援している。身体状態によりリフト浴や清拭等個別対応している。	入浴は主に午前中に実施し、入居者の状態に合わせた個別対応が行われている。また、入浴順番や時間も入居者の希望を尊重し、支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを理解しており声かけをして休息してもらっている。除湿器や加湿器を使用し居室の温度や湿度をチェックを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬の説明書を確認し効用や用法用量を理解している。症状変化時は看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	高齢化して家事等できる方が少ないが、個々の能力に応じて洗濯物たたみ等をして頂いている。毎日集団体操や歌を歌っている。誕生会やクリスマス会を開催し楽しんで頂くように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自発的に外出を希望される方は少ないが、併設のグループホームの入居者と一緒に花見に出かけたり、施設周辺を散歩したり外出支援している。	入居者が重度化し外出の機会が減っているが、外出の意向があれば、家族へ伝え、外出できるように支援されている。天気の良い日は、施設周辺を散歩されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が多く、お金を所持している方は居ない。買物を希望される方は職員と一緒に出かけ対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場の壁に季節に応じた花や張り絵をし、廊下の壁には、行事に参加された時の写真を貼っている。除湿器、加湿器、空気清浄機を活用し温度や湿度などに注意している。	加湿器、空気洗浄機を適宜に設置し、1日3回湿度、温度を測定、管理し感染予防に努められている。また、廊下を低反発の床材に張り替え、転倒での安全の配慮をされている。壁にはコメント入りの写真を飾り、季節感のある飾りつけで、とても明るいホームとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は気の合った方を隣同士にしたり、畳の部屋でくつろいでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限は無く、使い慣れた物や大事にされている物があれば持って来て頂くように話し、写真などを飾り居心地良く過ごせるように工夫している。	持ち込みに制限はなく、写真を飾ったり、使い慣れた物を持ち込まれている。また、ホームのベッド柵にレースのカーテンをかぶせることで、温かく居心地良く過ごすことができるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今回廊下の床材を柔らかい物に変更したり、廊下には手摺や歩行時等感知して電気が点灯されるようになっている。通常はベット使用だが畳も準備している。		